

コミュニティへの参画およびコミュニティの発展

コミュニティの発展に寄与する技術力の開発、助成事業の展開などを通じて、地域社会の一員としての役割を果たしていきます。

 <p>▶ コミュニティへの積極的な参画</p> <p>社会貢献方針を策定し、よき企業市民として、社会の要請と信頼に応え、国内外において自社の技術や人財を生かした社会貢献活動を推進しています。</p>	 <p>▶ 地域社会への教育支援</p> <p>キャリア教育や開発途上国に向けた学校建設など、さまざまな取り組みを行っています。</p>	 <p>▶ 地域社会とのコミュニケーション</p> <p>地域の皆さまとのコミュニケーションを深めるとともに、地域社会への貢献に向けたさまざまな取り組みを行っています。</p>
 <p>▶ コミュニティ発展のための技術力の開発と提供</p> <p>国際社会の発展に向けて、専門家派遣や技術支援、寄付活動などを通じて、開発途上国へ多くの支援活動を続けています。</p>	 <p>▶ ベンチャー企業の成長支援</p> <p>次世代を担うエンジニアの育成や支援、さまざまなサービスの提供など、ベンチャー企業のサポートを積極的に行っています。</p>	

コミュニティへの積極的な参画

社会貢献方針

KDDI グループは、2012 年に社会貢献方針を策定し、よき企業市民として、社会の要請と信頼に応え、国内外において自社の技術や人財を生かした社会貢献活動を推進しています。

基本理念

KDDI グループは、「KDDI フィロソフィ」にもとづき、当社が関わるすべてのステークホルダーのご満足を追求することで、持続的に世界中の人々が豊かで幸せな生活を送れる、笑顔あふれる社会の実現に貢献します。

行動指針

1. ICT (情報通信技術) の活用による社会課題の解決が、情報通信事業者としての社会的責任であると考え、すべての人々に安心・安全で快適なコミュニケーション環境をお届けすることを目指します。
2. 「デジタルデバイド (注) の解消」「健全な青少年の育成支援」「環境保全」「社会・文化支援」「災害時支援」の 5 分野を社会貢献活動の中期的テーマと定め、ネットワーク、商品・サービスなど持てる資源を最大限に活用し、KDDI らしい ICT を活用した社会貢献活動を実践します。
3. ステークホルダーとのコミュニケーションを通じて、活動内容の継続的改善と開示・共有を図り、社会の発展に寄与します。
4. KDDI グループ社員は、社会貢献活動方針を共有し、よき企業市民として主体的な活動を行うことで、社会とともに持続的に成長することを目指します。

注) PC やインターネットなどの情報通信技術を「持つ者」と「持たざる者」との間に、情報格差が生じる問題。

社員参加型の社会貢献活動 「+αプロジェクト」

DATA 2013 年度の「+αプロジェクト」による寄付金総額

8,783,500 円

「+αプロジェクト」は、KDDI 独自の社員参加型の社会貢献プロジェクトです。プロジェクトメンバーが社内外で行った社会貢献活動に対してポイントを付与し、積み立てられたポイントを 1 ポイント 100 円に換算し、メンバーが推薦する慈善団体などに KDDI が寄付をする仕組みです。2014 年 3 月現在、全国約 9,800 名の社員がプロジェクトメンバーに登録しており、2013 年度は過去最高のポイント数となりました。2013 年度分の寄付金は、環境分野では、「特定非営利活動法人 表浜ネットワーク」や「三陸ひとつなぎ自然学校」、医療関係では「特定非営利活動法人 在宅医療サポート協会」等、計 35 の慈善団体へ寄付しました。

事業を通じた社会貢献

クリック募金 「キボウのカケラ」

ひとつのやさしい気持ちのカケラが、たくさん集まるとキボウに変わる。そんな思いを込めたクリック募金サイト「キボウのカケラ」は、お客さまのクリック数を1クリック1円に換算し、社会貢献活動を行っているNPOなどへKDDIが寄付を行うものです。2013年度は、総額2,275,951円の寄付を行いました。



□ クリック募金 「キボウのカケラ」

被災地支援

2013年度、KDDIは、大規模な災害が発生した際、EZweb上に「被災地支援義援金サイト」を開設し、お客さまに壁紙をご購入いただいた売上金の全額を寄付しました。

2014年度の活動は「KDDI キボウのカケハシ」にてご確認ください。

□ KDDI キボウのカケハシ

国内

	寄付金額	募集先	寄付先
台風26号	2,209,775円	被災地支援義援金サイト、KDDI	日本赤十字社東京都支部
台風18号	1,442,811円	同上	中央共同募金会

海外

	寄付金額	募集先	寄付先
フィリピンハイエン台風	5,086,720円	被災地支援義援金サイト、KDDI	日本赤十字社
東南アジア水害	988,554円	同上	ジャパン プラットフォーム
フィリピンルソン島洪水	951,154円	同上	ジャパン プラットフォーム
ミャンマー洪水	600,054円	同上	ジャパン プラットフォーム
インド北部洪水	2,036,687円	同上	日本赤十字社
アメリカ・オクラホマ州竜巻	1,415,000円	同上	日本赤十字社

被災地過疎のコミュニティ再生事業への参画

KDDI は、2011 年度から東日本大震災の被災地においてさまざまな支援活動を実施しており、延べ約 400 名の KDDI 社員が活動に参加しました。

2012 年 2 月からは、岩手県上閉伊郡大槌町の夢と希望ある未来のために復興直後に立ちあがった一般社団法人おらが大槌夢広場に出会い、震災前まで盛んだった観光業、商工業、水産業、農業の再生と生活・雇用支援のための事業を柱としてともに活動を行っています。

KDDI 社員が大槌町に行き、仮設住宅での語らい、海岸でのがれき撤去、塩害で枯れた木材の伐採、古民家のリフォーム、ホタテやわかめの出荷作業の手伝いなど、さまざまな支援活動を行っています。



大槌町の活動に参加した KDDI 社員

▶ ハイライト 6 Support

2013 年度の活動報告

コミュニティスペースとして利用予定の古民家の再生、周辺環境の整備や、ホタテやわかめの出荷作業を一緒に行いました。

古民家再生活動	
5 月	古民家周辺の土地整備・畑作り
6 月	古民家周辺の土地整備・畑作り
9 月	古民家周辺の草刈り作業、古民家の床へのセメント流し込み作業
11 月	古民家の床板張替作業
漁業支援活動	
1 月	浮きの回収・わかめの選別作業
2 月	ホタテ貝の箱詰め作業等

支援活動に参加した社員の声

・私たちの活動、それ自体は非常に小さなものだと思いますが、小さな活動でも社会全体に広がっていけば、大きな力になると確信しています。

・毎回、「自分たちに何ができるんだろうか」と考えながら参加しています。微力ながらも被災地を応援していく活動をこれからも続けていきたいと思っています。



ボランティアに参加した社員

大槌町の方々の声

一般社団法人おらが大槌夢広場

KDDI さんには、古民家そのものの再生活動だけでなく、活動後のワークショップにも参加をお願いしました。私たちと車座になって、活動を通じて見たこと感じたことを語り合っていたのです。時には町の将来像について深夜にまで議論が及ぶこともありました。参加する町の人も、仮設住宅に入居しているお年寄りから、高校生、漁業関係者など多彩でした。

ワークショップを通じてわかることは、普段、自分たちでは気がつかない「町の長所」だったりします。自分たちでは「当たり前」だと思うことも、都市部の方には貴重な資産に見えたりするからです。こうした意見に耳を傾けながら自分たちの将来像を描くのも、とても大切なことだと思っています。



一般社団法人おらが大槌夢広場
代表理事 白沢 和行氏

新おおつち漁業協同組合

震災前の大槌町は鮭が遡上するような漁業の町。しかも三陸特有のリアス式海岸は、親潮と黒潮が交わる格好の漁場でした。震災前の総水揚げ額は約 11 億円でしたが、震災で壊滅的な被害を受け、漁業組合は事実上破産し生産者数も激減しました。

そのようななか、私も含めた 10 名のほたて養殖組合員が、この漁業の町を建て直すべく奮闘しています。どこにも負けない大槌産のホタテやわかめを日本全国の方に食べて欲しいです。

今後は、KDDI さんの事業を通じた社会貢献活動とコラボレーションすることで、さらなる組合の活性化を期待しています。



新おおつち漁業協同組合
大槌湾ほたて養殖組合
副組合長 越田 秀一氏

地域社会への教育支援

キャリア教育

子どもたちが将来、社会のなかで自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力を養うキャリア教育の必要性が増えています。この視点に立ち、KDDI では、主に中学生、高校生に向けたキャリア教育を展開しています。2013年度は、合計10校に対しキャリア教育を実施しました。いわゆる社会科見学、会社訪問ではなく、実社会で働くKDDI社員と対話を行うことで、さまざまな職業についての見識を深めてもらい、将来の自分の進路を考える機会を提供しています。

参加した教職員の方からは、「キャリア教育に協力してくれる企業はまだ少ない。本当にありがたい」「企業で働くことと自営業との違いを分かりやすく説明してくれて良かった」といった声をいただきました。



キャリア教育を行う KDDI 社員

チャリティコンサートと学校建設

1970年代から1990年代初頭にかけて内戦状態だったカンボジアは、現在、学校教育面において、復興途中です。KDDI 財団では、2005年から毎年、カンボジア支援のチャリティコンサートを開催し、その売上金や会場での募金にKDDIからの協賛金を加えた金額を、学校建設のためNGO「World Assistance for Cambodia」に寄付しています。

この活動を通じて、国際化とICTに適応する人財育成を目的とした「KDDI スクール」を毎年建設しています。2014年1月には、カンボット州に通算9校目となる「プノンタウ KDDI スクール」が開校し、村の人々も参加して式典が執り行われました。



KDDI スクール開校式後の記念撮影の様子

▶ ハイライト 5 Hope

開発途上国への教育支援

KDDI 財団は、2012年度に引き続き、カンボジアの子どもたちに絵を教えるNGO「小さな美術スクール」への支援を行いました。日本で開催するチャリティコンサートのプログラムやKDDI財団機関誌に生徒の作品を多く採用したほか、コンサート会場では生徒の絵画を表紙にしたノートを配布して「小さな美術スクール」への寄付を募りました。

KDDI デザイニングスタジオでの「親子で楽しむケータイ分解体験教室」

KDDI は、2013年8月に、携帯電話のリサイクルについて学び、携帯電話のカメラ、スピーカー、液晶などの部品を手作業で分解する実体験をしてもらう、親子を対象とした「ケータイ分解体験教室」を KDDI デザイニングスタジオにて開催しました。

通常では体験できない携帯電話の分解作業を通じて、子どもたちにリサイクルの大切さを伝えることができ、参加者からは来年も参加したいという感想が多く寄せられました。



分解作業の様子

地域社会とのコミュニケーション

全国各地の主な社会貢献活動

KDDI は、地域の皆さまとのコミュニケーションを深めるとともに、地域社会への貢献に取り組んでいます。

地域振興

エリア	2013 年度の主な活動
北海道	「第 2 回もいわ山ヒルクライムラン 531」に参加
宮城	「仙台市 PTA フェスティバル」に参加
栃木	小山ネットワークセンター構内を一般開放し 1,800 名が来社
埼玉	KDDI 小室用地を埼玉県および伊奈町に譲渡
東京	地域イベント「i-i FESTA」に参加
山口	「衛星通信デモ、パラボラアンテナライトアップ」を実施
山口	「道の駅 仁保の郷 大農業まつり」に参加
愛媛	「第 52 回愛媛マラソン」前日ボランティアに参加
福岡	「明日の子どもを育てるフェスティバル」に出展
福岡	「農山村との絆」モデル事業で福岡県八女市、山村塾と協定を締結

自然環境保護

▶ 全国各地で取り組む KDDI の環境保全活動（一例）

清掃活動

エリア	2013 年度の主な活動
北海道	「創成川公園清掃美化活動」に参加
宮城	「SENDAI 光のページェント」後の清掃活動を実施
石川	「クリーン・ビーチいしかわ」に参加
石川	「浅野川清掃活動」に参加
石川	花火大会後の清掃活動に参加
愛知	「表浜海岸清掃活動」を実施
鳥取	「鳥取県日野川の清掃活動」に参加
広島	「ごみゼロ・クリーンウォーク」に参加
山口	八俣送信所敷地周辺で清掃活動を実施
山口	「空き缶ゼロの日」に参加
四国	「88 クリーンウォーク四国」に参加
徳島	「日和佐クリーンビーチ活動」に参加
愛媛	「里島めぐり 2013 みかんの日ウォーキング&ビーチクリーニング」に参加
福岡	「博多駅前清掃クリーンデイ」に参加

防災

エリア	2013年度の主な活動
青森	青森県と「災害時における通信設備復旧等の協力に関する協定」を締結
関東	九都県市合同防災訓練に参加
東京	首都圏直下型地震を想定した災害対策訓練を実施
神奈川	神奈川県下で初の「災害交通対策訓練」に参加
石川	金沢事業所オフィスビルの消防訓練に参加
石川	石川県防災総合訓練に参加
静岡	浜松市役所と防災訓練を実施
広島	広島胡町事業所が防災訓練に参加
佐賀・鹿児島	佐賀県と鹿児島県の総合防災訓練に参加

震災復興支援

エリア	2013年度の主な活動
北海道	さっぽろ雪まつり「東北復興支援キャンドルイベント」に協賛
岩手	「被災過疎地の支援活動」に参加
岩手	大槌町での被災地漁業ボランティアに参加
宮城	仙台七夕まつり「支援の折鶴」を展示
宮城	「気仙沼漁協ボランティア活動」を実施
宮城	「いちご農家の支援活動」を実施
宮城	「みんなで作る復興コンサート」を開催
東京	福島県県外避難者イベントに協賛

その他

エリア	2013年度の主な活動
北海道	「フィルタリング普及」を促進
北海道	豪雪地域の「雪かきボランティア活動」に参加
埼玉	福島県南相馬市の中学生がKDDI 研究所を来訪
東京	中央大学で「キャリア教育」講義を担当
東京	社長が「電波の日記念講演会」で講演
東京	「世界 ICT サミット 2013」で社長が基調講演
東京	東京消防庁千住消防署で「KDDI ケータイ教室」を開催
東京	夏休み特別企画「ケータイ分解体験教室」を開催
東京	「西新宿街ぐるみプロジェクト×KDDI ケータイ親子教室」を開催
東京	「第一回 情報アクセシビリティフォーラム」に出展
東京	「チャリティコンサートクラシック 2014」を開催
東京	「耳の日記念文化祭」に出展
富山	「女性活躍推進イベント」で講演
愛知	au NAGOYA で「中学生の職業体験学習」を実施
福岡	「女性活躍推進イベント」で講演
福岡	「青少年のインターネット利用環境づくりフォーラム in 福岡」に参加

コミュニティ発展のための技術力の開発と提供

国内での取り組み

サマースクール開催

KDDI 財団は、東北大学、名古屋大学、九州大学が開催する小中学生を対象とした「理科教室」に毎年協賛しています。このうち、東北大学では、中学生に科学や技術に興味を持ってもらうことを目的として理科・科学の実験を行う「たのしいサイエンス・サマースクール」を毎年開催しており、2013年度で20回目となりました。

実験では、LED や電子部品を使った模型を作成し、大学生や大学教授がその仕組みや作り方について、中学生に丁寧に教えました。

参加した仙台市立第二中学校の生徒からは「検波器を作って電波や発光ダイオードの仕組みが分かり、技術の基礎が少し分かった」や、大学生スタッフからは「はんだ付けなど、教える大変さもあるが、予習してくる意欲的な生徒もいて、やり甲斐を感じた」とコメントをいただきました。



参加した中学生の皆さん

国際連携によるサイバー攻撃の予知技術の研究開発

KDDI は、総務省の研究開発公募案件「国際連携によるサイバー攻撃の予知技術の研究開発」に、6法人・団体からなる研究機関の代表として協力しています。

近年、不正侵入や情報詐取などのサイバー攻撃がより大規模化、巧妙化しており、社会・経済活動に与える影響を無視できない状況です。総務省では、本プロジェクトを通じ、サイバー攻撃に関する情報収集ネットワークおよび国際的連携を強化し、ISP（インターネットサービスプロバイダ）や大学などと協力してサイバー攻撃に対抗するための研究開発を推進しています。

KDDI は、本プロジェクトの一環として、複数の海外拠点にサイバー攻撃を観測するためのセンサーを設置するとともに、KDDI 研究所、財団法人九州先端科学技術研究所、株式会社セキュアブレイン、横浜国立大学、ジャパンデータコム株式会社と共同で、国際連携によるサイバー攻撃の早期把握・予知技術に関する最先端の研究開発を進め、国内におけるビジネス基盤にとって重要なネットワークインフラの安全性確保に資することを目指しています。

三浦雄一郎氏のエベレスト登頂を支えたもの

2013年5月23日、3度目のエベレスト登頂に成功した三浦雄一郎氏は、エベレスト登頂における歴史で最高齢登頂者となりました。三浦雄一郎氏の3回のエベレスト登頂を支えたものの一つにKDDI が提供しているB-GAN サービスがあります。

「高所登山では情報が命綱。気象情報取得、メディカル情報取得、外部への情報発信が、B-GANにより格段に向上しました。また高速化により映像配信の時間が短縮し、料金体系についても、接続時間から1MBまでが定額になったことで、料金を気にせず、登頂アタック時に繋いだ状態で、ライブの情報を現地から収集することができました」（ミウラエベレスト2013 通信担当）

海外での取り組み

国際協力活動

KDDI は、2009 年に発足した「KDDI 財団」を国際協力の主要な実施機関として、社会の健全な発展に寄与するための活動を幅広く行っています。詳細は、KDDI 財団のホームページをご覧ください。

- 財団法人 KDDI 財団
- ハイライト 5 Hope

助成事業の展開

KDDI 財団は、ICT 関連の現地調査を含む特定地域での調査研究を援助するほか、NPO などの社会的・文化的諸活動、外国人留学生、日本人海外留学生への助成金支援、また、特に優秀な成果をあげた研究に対して、KDDI 財団賞を授与するなど毎年総額約 7,000 万円の助成事業を行っています。このほか、大学と連携した小中学生向けの理科実験教室も実施しています。

海外研修生の受け入れ

KDDI 財団は、旧 KDD（国際電信電話株式会社）が 1957 年から行ってきた「海外からの研修員受け入れ」事業を継続して実施しており、2014 年 3 月までに 144 カ国、計 5,700 人以上を受け入れました。研修員は、帰国後それぞれの国で要職に就く方も多く、開発途上国の人財育成に大きく寄与しています。

2013 年度は、「ルーラル地域（へき地）向けの小規模通信」と「ブロードバンド通信のためのサイバーセキュリティ政策・技術」の 2 コースを設定しました。



海外研修員受け入れの様子

海外 ODA 技術コンサルティングの提供

KDDI 財団は、政府開発援助（ODA）にもとづく技術コンサルティング業務として「カンボジア国メコン地域通信基幹ネットワーク整備計画（CP-P5）」および「イラク国主要都市通信網整備事業（円借款）（IQ-P17）」の 2 件を実施しています。

「カンボジア国メコン地域通信基幹ネットワーク整備計画（CP-P5）」は、2007 年に、ほかのコンサルティング会社と共同で、テレコム・カンボジア（TC）とコンサルティング業務を受注したもので、カンボジア国のコンポンチャムから首都プノンペンを経てシハヌークビルにいたる光ケーブル基幹伝送路（460km）、およびプノンペン市内のメトロリング（30km）ならびに光アクセスラインを沿線の主要都市に構築し、最新の NGN 次世代通信システム（IMS: IP Multimedia Subsystem）を導入するものです。2013 年度は、設備調達に係わる応札業者との契約交渉、契約書の締結を完了し、契約内容にもとづく現地建設工事を開始しました。

また「イラク国主要都市通信網整備事業（円借款）（IQ-P17）」は、2013 年度に新規の海外 ODA 技術コンサルティング案件として、本コンサルティング業務を受注した日本企業とコンサルティング業務応援要員派遣に関わる業務委託契約を締結し、IP エンジニア（数名）を隣国のヨルダンに派遣し、次世代ネットワークの IP 関連設備に係わるコンサルティング業務を支援し、現地調査、基本設計を実施しました。

青年海外協力隊・シニア海外ボランティアへの派遣

KDDI は、社員が会社に籍をおいたまま青年海外協力隊やシニア海外ボランティアとして途上国で活躍できる支援体制を構築しています。1967 年から現在までの派遣者数は、青年海外協力隊、シニア海外ボランティアを合わせて 23 カ国、延べ 66 名にのぼります。

デジタルデバインド解消への取り組み

開発途上国におけるデジタルデバインドの解消は、情報通信事業を提供する企業として、積極的に取り組むべき社会的課題と認識し、KDDI 財団ではアジア太平洋地域の国々を中心に 2002 年度から継続してこの課題に取り組んでいます。

2013 年度は、太平洋のミクロネシア連邦の電話もない孤立した離島へのインターネット接続と、その維持の研究を行いました。また、燐鉱石（リンコウセキ）の枯渇したナウル共和国にて、政府の LAN を地上に露出した数十年前のケーブルから光ファイバー網を構築・切替し、政府のアプリケーションを高速かつ安定的に稼働させ、さらに高画質な動画の配信ができるようにしました。



現地 TV のニュースでプロジェクトが紹介される様子（ナウル）



離島の診療所前で、これから先生になる人たちに訓練する様子（ミクロネシア）

〈TOPICS〉 ブータン王国情報通信省より、KDDI、KDDI 財団に感謝状

2012 年から 2013 年にかけて、ブータン王国の情報通信省や現地通信会社と共同で実施したアジア太平洋電気通信共同体（APT）のプロジェクトに関して、ブータン王国より、感謝状が届きました。

これは、同国のブロードバンド通信技術と広帯域アプリケーションの有効活用を実証するため、同国ルーラル地域（へき地）3 カ所に光ファイバーや WiMAX、Wi-Fi のパイロット網を共同で構築したことによります。



関係者にブータン王国情報通信省から感謝状が贈られた

技術専門家の派遣

KDDI グループは、開発途上国に対する技術移転の一環として、1960 年より政府、JICA（国際協力機構）、ITU（国際電気通信連合）などからの要請に応え、アジアを中心にアフリカ、南米など 20 数カ国へ積極的に通信技術の専門家を派遣してきました。当社の事業運営を通じて培ってきた電気通信の運用技術、交換機・伝送路に関する技術などの途上国への移転により、それぞれの国での通信事情の改善や国際通信事情の改善に寄与しています。

国際機関を通じた国際協力

KDDI グループは、ITU-D（国際電気通信連合開発部門）や APT（アジア・太平洋電気通信共同体）などの通信関連国際機関への参画を通じて開発途上国の通信事情改善に取り組んでいます。ITU-D では、開発途上国の電気通信の円滑な発展に資するため、活動のひとつとして各種ハンドブックを作成していますが、そのなかでも当社ノウハウを生かし、IMT システムやブロードバンドシステムに関する情報の提供で貢献しています。APT 主催の海外研修で、モバイル通信、ブロードバンド通信、情報セキュリティなどの研修コースを企画運営しています。これら多方面にわたる国際協力活動が高く評価され、毎年数名が国際協力賞および国際活動奨励賞（いずれも世界情報社会フォーラム協議会/日本 ITU 協会共催）を受賞しています。

ベンチャー企業の成長支援

「KDDI∞Labo (ムゲンラボ)」

KDDI は、グローバルに通用する革新的なインターネットサービスをつくり出す意欲を持った若いエンジニアを支援するプログラム「KDDI∞Labo」を2011年に開始しました。同プログラムでは、公募で選抜されたチームに対し、通信事業者の立場からサービス開発サポート、起業の際の経営サポート、プロモーションにいたるまで一貫して支援し、KDDI 事務所内のコミュニケーションスペースの提供やサービス開発に必要な端末の無償貸与など、さまざまな側面でサポートを行っています。2013年9月から開始した第5期プログラムには約100社の応募から採択された5チームが参加し、3カ月間のプログラムを経て、サービスの開発を行いました。開発後、独自性・市場性・完成度について評価を行い、株式会社ザワットが開発した、女性のためのスマートフォン向けオークションアプリ「スマオク」を最優秀サービスとして選考致しました。2014年3月から第6期プログラムを開始し、「0から1へ!~KDDIと一緒に、グローバルに通じる新しいインターネットサービスを造り出していこう!~」をコンセプトに、アイデアレベルの企画を3カ月で形にするプログラムを実施しています。

若いエンジニアの育成を目的とした学生枠の設置など、新たな取り組みを交えながら、独創的なアイデアや技術の事業化に向けた支援を引き続き行っていきます。



「KDDI∞Labo」第6期プログラムの参加メンバー

▶ ハイライト 3 Growth

「KDDI Open Innovation Fund」

「KDDI Open Innovation Fund」は、有望ベンチャー企業への支援を目的に、KDDIが出資し、グローバル・ブレイン株式会社が運用するコーポレート・ベンチャー・ファンドとして2012年2月に設立されました。出資企業は国内外を合わせて19社(2014年4月末現在)にのぼり、Eコマースの「LUXA」(本社:東京都渋谷区)、「MONOCO」(本社:東京都渋谷区)、「ORIGAMI」(本社:東京都港区)をはじめ、ユーザーで作る情報サイト「nanapi」(本社:東京都渋谷区)や、タクシー配車サービス「HAILO」(本社:ロンドン)など将来のITをけん引するベンチャー企業と提携しています。

また、投資のみに留まらず、Origami・伊勢丹・KDDIが連携し、伊勢丹新宿店のイベント実施にあわせて、イベント会場にOrigamiアプリでチェックインするとプレゼントがもらえる企画の実施や、auスマートパスと連携したQ&Aサービス「モヤモヤ nanapi for au」の提供など、KDDIのプラットフォームやサービスと連携したコラボレーションも実現しています。2014年以降も引き続き、ITで人々の生活を豊かにするベンチャー企業との出資提携を実施していきます。



LUXA との資本提携